三七人参

（サンシチニンジン・ウコギ科オタネニンジン属）

三七人参はウコギ科の多年草植物サンシチニンジン（Panax notoginseng）で紡錘状の太くこぶ状の突起がある根を薬用とします。中国雲南省東南部のベトナム国境に近い文山州は三七人参の里として有名で中国生産の85％を産出しています。海抜1,200～1,800mの山岳斜傾地で栽培され、6月頃に青い放射状の小さな花蕾が多数つき10月頃に赤くなったその花に種ができます。その種を植え1年経たその苗を開墾した斜面の地に植え替えます。周りは雨風、直射日光を避けるため、黒色の遮光用ネットを張り廻らしています。草丈30～60cmになり、種を蒔いてから3～7年経たないと根を収穫しないことから、三七人参と呼ばれます。

しかし現在は3年から4年で収穫。文山三七研究院・院長の談話によると三七人参を分析した結果、栄養素は３年物で充分。栽培期間が7年を過ぎると、その土地には栄養素はなくなり痩せ細るので、逆に品質は劣化していくそうです。ちなみに、今回の三七人参を訪ねる旅の初日は上海を訪ねました。400年前開業の老舗薬局店・童涵春堂で 250 gの三七人参を現地での参考品として買いましたが、その時、販売員から「この三七人参は10年物の最高品です」と説明を受けました。ここで購買したのは失敗・・・

広西省の田陽、田東でも産することから「田」の字が冠され田七人参とも呼ばれます。中国南部の苗（ミャオ）族や壮（チワン）族などの民族薬としても古くから用いてきた止血、消炎、鎮痛などの薬用植物です。又、三七人参は別名「金不換」と呼ばれ、中国では長らく「禁輸出品目」に指定。1596年、漢方書「本草綱目」李時珍が雲南三七人参を「山漆・サンチ」と記載。

三七人参の花茶

山漆と呼ばれたのは強力な止血作用を漆の接着力に喩えたもです。ベトナム戦争時に北ベトナム軍や現地人が止血薬として使用していたのを見た米軍がこの薬草の知識を持ち帰り、その存在が世界に知られる事となりました。

三七人参

苗族の少女

文山学院/文山三七研究所の５代院長・陳中堅氏に研究所内をご案内して頂きました。
中国では三七人参は漢方薬に属し、現在、「中国薬典」 2015年版に合う品は日本のポジティブリストに合い合格と認められ、
2017年3月施行からは、残留農薬と重金属の検出禁止の基準が中国政府により、さらに厳しく定められました。